

平成23年度 労働災害防止論文 金賞

安全意識の持続

北海道クリーン・システム株式会社 吉岡 淳平

私は、当社の資源リサイクルセンターに入社して一年三ヶ月が経とうとしています。

昨年を振り返ると、作業については勿論のこと、機械の取扱い上の注意事項、重量物の持ち方や工場内の歩き方に至るまで「絶対に怪我だけはするな」と厳しく教え込まれました。

また、毎月一回の危険予知訓練とヒヤリ・ハット事例検討会でも先輩達の経験や知識を生かした安全に対する心構えや取り組み方について学びました。今年、4月から高卒の後輩が入社することもあり、工場内の安全に対する方策を新たな若い発想で取り組んで貰いたいと頼まれ引き受けました。

当社では、昨年4月から「安全の日」として「セーフティーワンデー」を設定し、事故のない日を目指して『明るい職場づくり』に邁進しています。しかし、残念なことに昨年度は該当安全日に3件事故が発生してしまいました。

事故というのは予期せぬ時、ふとした時、大丈夫だろうと思った時、様々な場合で起こります。事故を未然に防ぐ事は出来ないのでしょうか。

本社からは安全の日に具体的行動を入れた取り組みを図るよう指示があり、早速私は工場の全員と話し合い、安全意識を持続させるために次の二点に取り組むことにしました。

一点目は「ハチマキ」です。作業に集中するとどうしても「安全の日」であることを忘れが

ちになってしまうという声が多く、それならば意識を持つ方法としてヘルメットの上に赤ハチマキを締めることで、安全（帽）の上に気持ち（ハチマキ）を引き締めて作業をしようと決めました。また、全員がハチマキを着用することで安全に対する士気が高まります。

二点目に、「声掛け運動」です。毎月担当者を決めて作業前・休憩後に作業員の一人一人に「今日はセーフティーワンデーです。安全作業で頑張りましょう。」と声掛けをすることです。とても簡単な事ですが、実際には単独作業をしていることが多く、コミュニケーションが欠けているのが現状です。人と人との繋がりが薄れかかっているこの時代、古典的な方法ではありますが安全作業に打ち込む点でとても重要な事だと思います。先輩が後輩に声を掛け、後輩が先輩に声を掛けて注意できる職場に事故は起こらないと思います。

私はこの情報化社会、次々と新しい物が生み出されていく中で、安全に対しては今こそ先人たちが培ってきた方法の人と人との繋がりが必要であると思います。

最後に、先輩達の知識や経験、後輩の発想や意見を大切に、事故のない職場を守り続けなければならないし、細かな事でも作業をする上で起こりうる危険の芽を取り除くことが職場の安全に最も大切であることと思います。

平成23年度 労働災害防止論文 銀賞

ヒヤリ・ハット体験と対策

北海道クリーン・システム株式会社 松尾 伸

私共の職場の主な業務として、特急列車の車内販売商品の積卸し作業があります。

事務所から、各特急列車の発着するホームまで、電動台車で商品を積載して運びます。

電動台車の総重量は、約200kgになりますが、この電動台車で移動の際、私共はヒヤリハットを体験することになります。

駅の西コンコースを歩いてエレベーターを使用してホーム上にあがり、ホームを通るこの行程の中で、一番の課題は、コンコース、ホームに、お客様がおられることです。

小さなお子様からご高齢者の方まで年齢も様々ですし、グループの方々、イヤホンをされている方、携帯電話を使用されている方、下を向いて歩かれている方など行動も様々です。

私共は、電動台車で移動の際、お客様との接触は、絶対あってはならないのです。

そんな環境の中で、私が体験したヒヤリハットは、ホームでの出来事ですが、前を歩いていたお客様が突然止まり横を向いたまま、急に私の方に向かって走り出した為、あやうく正面衝突するところでした。おそらく、特急列車の自由席車両の横を歩いていたので、空席を見つけ急いで車両に乗り込もうとされた為だと思われませんが、幸い、このお客様と多少離れていたため接触することはありませんでしたが、この様な

ケースを二度ほど体験いたしました。

いずれも、お客様と接触することは有りませんでした。本当はヒヤリとする体験でした。

このようなお客様を、私自身“顔の見えないお客様”と定義して、対策としては、まず、お客様の行動の予想を絶対しない、行動をうたがひ、常に“かもしれない”と頭にえがくことしております。

これは、急に止まる、急に走りだす、急に列車から降りる、“かもしれない”等々、先に、定義した“顔の見えないお客様”とは具体的には、後や横あるいは下を向いているお客様のことで、当然お客様の顔や目を見ることはできません。この様なお客様に対して具体的な対策は、電動台車で移動の際には、自分自身の歩行速度をおそくし、充分にお客様との間隔を取り、さらには、電動台車の横及び後方にお客様が歩いているか、常に確認をしながら移動することとしております。

私共の職場は、幸いにもここ2年間以上、無事故を継続しております。

今後、全員で各自が体験したそれぞれのヒヤリハット、そして各自が考えたその対策を、全員で共有できるように努力して、無事故を継続してまいりたいと強く決意しております。

平成23年度 労働災害防止論文 銅賞

歩くという事で労働災害の防止を考える

東京美装北海道株式会社 小松 秀俊

『なぜ労働災害は起きるのだろうか？』

そのような話は昔やらされ、そして様々な対策がなされてきた。

人がいる以上避けては通れない労働災害、その大半はささいなきっかけであるものが多い。

そのきっかけをどのように減らしていけるかということが労働災害の減少にも繋がるということで、私は事故が起こるそもそもの原点である『歩く』ということによって災害を考えてみた。

災害には自然災害を除けば大まかに分けると二種類あり、一つ目は自損によるもの、二つ目は他損によるものである。

歩くという行為はこのどちらの要素も持ち合わせ、被害者にもなれば、逆に加害者にもなる可能性もあるということである。

こうして考えると、歩くということはとても重要な行動だと改めて思う。

事故が起きた時の理由として、「意識をしていなかった」という例が大半を占めている。

歩くという行動は自然行為な故に、常に意識をするという事はなかなか普段行えないもの。

よって、危険が予想されるポイントで意識をするという事が必要である。

しかし自分の身に起きていない事故を起こるものとして想像するのはなかなか難しい。

そのために実際起こった通勤災害の事例を基に指導対策を行い、全従業員ヒヤリハット、KY

(危険予知)には特に力を入れて行っている。

具体的な対策として、目立つ衣服の着用、靴の補強による雪道対策、通勤経路での危険箇所の洗い出し、ここまでは事前にできる対策。

これからの対策+ α 事業所での対応が必要となってくる。

歩くという事を移動する為の自然行為と捉えず目的を達成させる為の行為と捉えてみてはどうだろうか？その日ぐっすり見る為に歩いて帰るといった目的でも良いし、事故を起こさないという目的でも良い。目的を達成させるためには、意識し行動するという事が自然に行われる。

誰もが聞いたことがあると思うが、幼少の時に『帰るまでが遠足です』という言葉聞き、今でもはっきりと覚えている。何故覚えているのかと考えてみた所、遠足の概念を変える言葉だったからだという事に気が付いた。仕事に置き換えて考えてみる。勤務時間がくれば仕事の終了だという概念があれば、『帰るまで仕事』だという意識の変革は必要なのかもしれない。歩くという事を今一度見直し、「意識をする」事を念頭に業務を行いたい。

そうすることによって一つでも多くの事故が減るという事に繋がるよう一歩ずつ邁進していく次第である。

平成23年度 労働災害防止論文 佳作

時間短縮という落とし穴

株式会社東洋建物興業 辻本英樹

私が勤めている警備事業部では、日頃から労働災害防止活動には積極的に取り組み、確実に成果を上げていた。特に、警備員は通勤も含め無事故で今日迄過ごしていたが、春先、突然労働災害が発生してしまった。事故の詳細は、新たな現場に、警備員を採用し実地で訓練を行っている最中での出来事である。

指導員に従って二名の新人が閉店の要領を指導されていた。この業務は時間に制約があり次々に業務を行っていかねばならず、指導する者も、研修を受ける者も息つく暇も無い。特に重要な事、注意をする点を伝える。

新人はメモを取るが、時間的な余裕が無く、次々移動する。最後のシャッター閉鎖になる直前、新人の内一名が、メモを取りながら小走りに進んできたので、危険を感じた、他の隊員が制止しようとしたが間に合わず、シャッター手前の小さな階段で転倒し膝を強打、約二週間の治療を余儀なくされた。本人への聞き取り調査では、急ぐあまり前を良く確認せず階段に気付くのが遅れたとの事でした。今迄重要視する事が無かった新人に対する労働災害防止に配慮出来なかった事がとても悔しく、残念でなりません。今回の事故を整理して記載します。

本人からの聴取

- ①急ぐ余り、前を良く確認しなかった。
- ②メモを取りながらのながら行為。
- ③建物の構造に不慣れであった。
- ④指導員に遅れを取らない事ばかり考えた。

指導員からの聴取

- ①説明しながらの業務の為、早口で要点を説明した。聞き取る側に配慮が不足していた。
- ②建物の構造に不慣れな者であることに注意せず、自分のペースで移動していた。
- ③業務実施前に時間を割いて、構造や注意点危険箇所等を話しておくべきだった。

自分が新人の頃、見て覚える的な感覚で実技指導を行ったが、相手の「性格」「理解力」等を考慮していなかったとの返答でした。

時間を短縮する事は、なかなか容易では無い。短縮するあまり、「無理」「ムラ」「無謀」「手抜き」が有ってはならない事は当然だが、何かを犠牲にしなければ時短は出来ないと勘違いしているようでは、労働災害は防げない。メンタルヘルスケアや通勤型労働災害等の防止に対する教育、実施教育に入る前に行うべき、施設の構造や危険箇所等の情報、注意点等を理解させる事もまた重要な教育であると考えます。安心・安全を守る者として、指導・教育を怠る事の無い様、危険な落とし穴には穴を避け、最善の注意を払い、労働災害事故防止活動に向き合いたいと思います。会社に託された新人社員の「夢や希望」を労働災害事故で壊す事の無いように、一件の労働災害も発生させない決意をもって、優秀な人材を育成してまいりたいと存じます。

平成23年度 労働災害防止論文 佳作

災害ゼロを目指して

株式会社ベルックス 滝澤 和彦

「怪我と弁当は自分持ち」、昔入社した当時によく聞かされた言葉です。それ以来、私の心の中に『安全』の2文字が消えたことはありません。作業中や通勤途中など、いつ、どこで、どんな予期せぬ事故に遭遇するか分からないのが現実なのです。

私が以前勤めていた会社では、時々事故が発生しておりました。「脚立を使って作業中に、誤って足を踏み外し落下」「エーテルを使用中に爆発して火傷」「コンベヤーに指を挟まれる」「通勤途中に交通事故」等々、その内容は様々です。古くから中国には「朝に紅顔あって、夕べに白骨となる」という諺があります。今挙げた事故も、一つ間違えると最悪の結果につながりかねないものです。多くの場合は、ちょっとした不注意、慣れからくる気の緩みなどが原因と思われる。職場災害に結びつく要因としては、一つには、作業者の側に「これぐらいなら…」「他の人がみていないから…」といった安易な気持ちがあるのではないかと感じます。また、職場の人間関係が影響することもあるでしょう。悩みやイライラを抱えながらの作業がストレスを蓄積、それが判断力と思考力を鈍らせて事故を引き起こす危険性もあります。職場では、人それぞれに物の考え方も異なり、性格も様々です。そうした環境の中で、いかに円滑にチームワークを発揮していくかが大事なことだと感じます。そのためには、自分の性格や置かれている立場を客観的かつ冷静に見つめること、相手

の言い分や意見を十分に聞き意思の疎通を図ることが大切です。また、職場の明るい雰囲気づくりには、オアシス運動（おはようございます。ありがとうございます等）の励行も重要です。挨拶一つが、人の心を温めます。

職場から労災ゼロを目指すためには、①安全衛生教育の徹底（特に新人社員）②作業標準の厳守③高所等、作業内容に応じた保護具の装着④不安全行動に対する積極的な注意・指摘（上司部下の分け隔てなく）⑤ミーティングにおけるヒヤリハット体験の交流——がとても重要だと考えます。

「ハインリッヒの法則」というのがあります。これは、1件の重大災害（死亡・重傷）が発生する背景には、29件の軽傷事故300件のヒヤリハットがあるというものです。アメリカの学者が同じような性質の事故1万件について調査したもので、“ヒヤリハットの積み重ねが大きな災害に結びつく”と警鐘を鳴らしています。

災害撲滅のためには、一つ一つのヒヤリハットを看過せず、貴重な教訓にしていく取組みが大切です。安全管理とは、「職場から事故を起こさず、誰一人として怪我をさせてはならない」取組みです。

安全行動に終着駅はありません。一人一人が、安全で災害の無い職場環境を目指して共に考え、共に実践し、今日も「安全入魂」で行動することが大切と強く感じます。

平成23年度 労働災害防止標語 入賞者

金賞

まだいいか！そのうちやろうが 手遅れに！

(株)ベルックス 前 洋 明

銀賞

互いに声かけ危険予知 みんなで作ろうゼロ災職場

北海道互光(株) 村 井 美恵子

目の高さ 変えて見つける 危険予知

東京美装北海道(株) 阿 部 佳 子

銅賞

言ったはず 聞いたはずより まず確認

東京美装北海道(株) 坂 上 智恵子

危険箇所 気付いたあなたが責任者 一声かけて安全作業

日本クリーン北海道(株) 酒 井 和 子

気を抜けば 失う信頼 増える事故

東京美装北海道(株) 六 角 照 章

佳作

あと少し、そんな気持ちに事故の影！！

(株)トーショウビルサービス 春 藤 聖 司

活気ある 朝の挨拶元気よく 今日も一日 明るい職場

(株)ベルックス 大 森 房 則

完璧と 思う人程 落とし穴

日本クリーン北海道(株) 五十嵐 亜 希

危険箇所 油断の数だけ 増えていく

東京美装北海道(株) 相 馬 圭 吾

危険予知、一つ先見て、後ろ見て

大平ビルサービス(株) 工 藤 誠

滑る、飛び出す、危険な場所は、仲間と共有 事故防止

(株)東洋建物興業 阿 部 尚 恭

小さな改善、大きな成果 みんなの工夫で安全作業

(株)トーショウビルサービス 一 戸 由 麻

注意して！慣れた作業に 潜む事故

(株)ベルックス 佐 藤 恭 子

慣れた頃、そっと近づく危険の兆し 声掛け呼び掛け 事故防止

(株)トーショウビルサービス 藤 山 くるみ

気を抜くな 慣れと油断が 事故のもと	東京美装北海道(株)	和田 昭 則
危険予知 想定外も 視野の内	協和総合管理(株)	出口 稔
作業手順、守る自分が、守られる	大平ビルサービス(株)	佐藤 亮 之
事故一件 失う信頼 100%	(株)クリーン開発	高橋 友 春
その危険 気づいて 伝えて みんなで注意 北海道クリーン・システム(株)		仁 藤 奈津子
千の感より一つの確認 基本順守で 職場の安全 協和総合管理(株)		二 俣 勝 美
注意する 厳しい言葉は思いやり 感謝の気持ちで 安全作業 北海美掃(株)		中 垣 美 孝
なぜなぜと 疑問を持つ現場内 改善進め 無災害 (株)ベルックス		小 友 宏 毅
ヒヤリで済んだ あの仕事 今日に活かそう 予知する目 日本クリーン北海道(株)		齊 藤 裕 子
振り返る 余裕が未然の ミス防ぐ 日本クリーン北海道(株)		森 橋 美津子
ミーティング 朝の一言 身を守る 今日も一日 無災害 (株)クリーン開発		齋 藤 正 義
見てますか？ 見て見ぬふりは、事故の元 (株)東洋建物興業		田 中 峰 子
もう一度 慣れた作業を 見直そう 東京美装北海道(株)		小 林 久美子
油断・過信が 事故を呼ぶ 初心に帰って 安全作業 (株)トーショウビルサービス		大 吉 秀 明
今日もまた 無事故を重ねて 楽しい職場 東京美装北海道(株)		穴 戸 やゑ子
忘れるな ヒヤリで済んだ出来事を 次ぎに活かして安全作業 北海道クリーン・システム(株)		丸 山 由美子